

文部科学省委託事業

平成 26 年度

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成 26 年度
「Ⅲ.「職業実践専門課程」に係る取組の推進(ii)「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」事業

自動車整備専門学校における職業実践専門課程の
第三者評価について

報告書

平成 27 年 3 月

学校法人 土岐学園
専修学校 中部国際自動車大学校

文部科学省委託事業

平成 26 年度

『職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成 26 年度「Ⅲ. 「職業実践専門課程」に係る取組の推進（ii）「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」事業』

【自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について】

成果報告書 目次

第 1 章 事業の内容	3
1. 事業名	
2. 事業の内容	
3. 事業実施期間	
4. 事業の推進体制	
第 2 章 事業の目的及び内容	11
1. 事業の背景	
2. 事業の目的	
3. 事業の内容	
4. 成果の活用方法	
第 3 章 実施経緯とスケジュール	15
1. 実施経緯とスケジュール	
2. 会議議事録	
第 4 章 自動車整備士について	79
1. 自動車整備士制度	
2. 自動車整備学校の現状	
3. 全国自動車大学校・整備専門学校協会（JAMCA）の活動、実績	
4. 第三者評価の必要性	

第5章 アンケート調査結果	109
1. アンケート調査の目的と結果の概要	
2. アンケートまとめ	
1) 学校評価に関するアンケートまとめ	
2) 学校関係者評価委員に対するアンケートまとめ	
3. アンケート調査フォーマット	
第6章 ヒアリング調査結果	163
1. ヒアリング調査の目的と結果の概要	
1) 第1回ヒアリング調査(私立専門学校等評価研究機構)	
2) 第2回ヒアリング調査(全国柔道整復学校協会)	
3) 第3回ヒアリング調査(日本技術者認定機構;JABEE)	
4) 第4回ヒアリング調査(文化服装学院)	
5) 第5回ヒアリング調査(金沢工業大学)	
2. ヒアリング調査のまとめ	
第7章 今後の自動車整備専門学校における 第三者評価の方向性について	175
1. 平成26年度事業調査からの第三者評価の方向性について	
1) JAMCAの現状	
2) 今年度の成果および第三者評価の基本的な考え方	
2. 第三者評価の骨子と体制の方向性について	
1) 機関別評価について	
2) 分野別評価について	
3) JAMCAにおける第三者評価の骨子(案)	
4) JAMCAにおける第三者評価の体制(案)	
第8章 今後の取り組みとまとめ考察・講評	183
1. 今年度の課題と今後の取り組み	
1) 組織的な啓発活動	
2) 第三者評価項目と評価システムの策定	
3) 第三者評価の実証実験	
2. まとめ	

第 1 章 事業の内容

1. 事業名
2. 事業の内容
3. 事業実施期間
4. 事業の推進体制

第1章 事業の内容

1. 事業名

「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」

2. 事業の内容

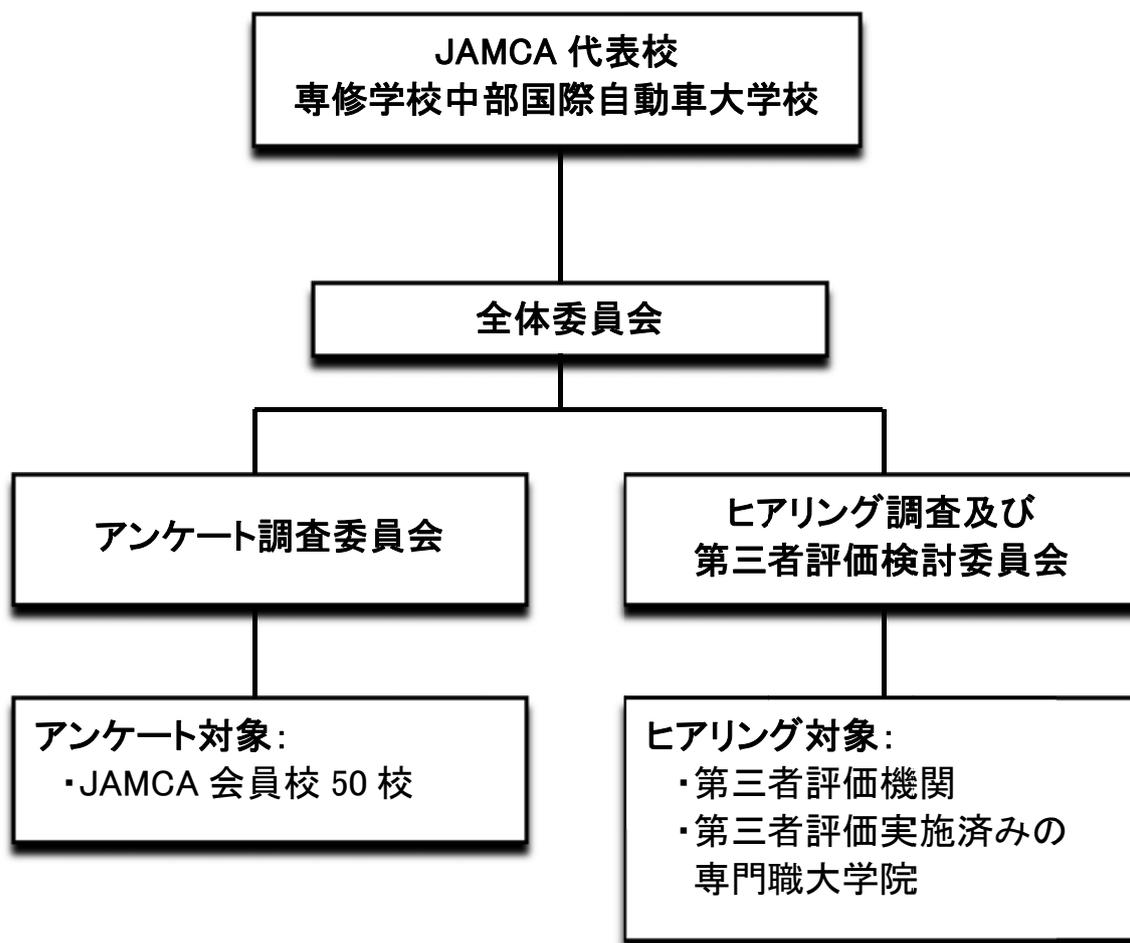
職業実践専門課程がスタートしたが、今後専門学校の質の保証・向上のためには各業界に適応した専門学校の評価が望まれる。今回その評価の方法として、第三者評価について検討を行うこととした。自動車整備専門学校では国家試験による資格取得が求められており、試験を通して整備士として必要な技術を習得している。また試験実施にあたり自動車整備士として必要な技術についても国・業界での検討が行われている。

さらに一種養成施設として実技試験免除受験資格が与えられ、教育時間数、教育内容、教員、教場、実習教材等において国から一定の基準を満たすことが義務付けられている。このような国・業界との緊密な連携により技術はもちろん就職後の社会人として必要なコミュニケーション能力についても習得が図られている。このような状況から自動車整備専門学校では、本来必要とされる評価項目や方法についても経験やノウハウの蓄積がなされている。このような自動車整備専門学校の特色や職業実践専門課程の認定要件も踏まえ、国や業界との連携を図りつつ自動車整備大学校・整備専門学校にとっての第三者評価の必要性、有効な第三者評価について検討していきたい。

3. 事業実施期間

平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 13 日

4. 事業の推進体制



1) 全体委員会

目的：自動車整備専門学校における特徴的な第三者評価のあり方について検討を行う。

「アンケート調査委員会」「ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会」における調査・検討内容を踏まえ自己評価・学校関係者評価が十分に進まない状況も考慮し、会員校の自己評価・学校関係者評価の現状について把握し、今後の第三者評価の必要性・評価項目・組織・方法・評価のフィードバック等について活動を通じてまとめられたアンケートやヒアリングの結果を踏まえ検討を行う。

体制：JAMCA 会員校 3 校を中心に、有識者も加わり組織

氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1 齋木 寛治	専修学校中部国際自動車大学校 理事長	総括	岐阜県
2 平井 一史	専門学校静岡工科自動車大学校 校長	事業についての企画・立案、 報告書の取りまとめ	静岡県
3 佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 校長	事業についての企画・立案、 報告書の取りまとめ	東京都
4 大西 純一	全国自動車大学校・整備専門学校協会 (JAMCA) 事務局長	報告書の取りまとめ、事務処理	東京都
5 樋口忠夫	国土交通省自動車局 技術安全部 元部長	助言	—
6 丸山 憲一	日本自動車車体整備協同組合連合会 元会長	助言	—
7 今枝 尚也	名古屋スバル自動車(株) 総務部 人事課長	助言	愛知県
8 小谷 将彦	専門学校東京自動車大学校 元校長	助言	東京都

2) アンケート委員会

目的：今後の第三者評価に活かすため自己点検自己評価・学校関係者評価の現状と第三者評価の必要性・評価項目・組織・方法等についてアンケートを実施。

体制：静岡工科自動車大学校を中心に職業実践専門課程の認定を受けた会員校にて組織

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	平井 一史	専門学校静岡工科自動車大学校 校長	総括	静岡県
2	山田 恵一	専門学校北日本自動車大学校 広報部長	アンケート項目検討、 結果検討等	北海道
3	小林 完	専門学校東京工科専門学校世田谷校 校長	アンケート項目検討、 結果検討等	東京都
4	野上 悟	(専)YIC 京都工科大学校 第一教務主査	アンケート項目検討、 結果検討等	京都府
5	古澤 幸治	専門学校広島自動車大学校 校長	アンケート項目検討、 結果検討等	広島県
6	中原 勝宣	九州工科自動車専門学校 校長	アンケート項目検討、 結果検討等	熊本県

3) ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会

目的：第三者評価を実施済の専門職大学院・自動車関連等の大学から第三者評価の現状・項目等の聞き取りを行い、評価項目・評価組織検討等に活かし、具体的な第三者評価項目及び組織を検討。

体制：東京工科自動車大学校を中心に職業実践専門課程の認定を受けた会員校にて組織

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 校長	総括	東京都
2	齋木 裕司	専修学校中部国際自動車大学校 校長	ヒアリング調査・第三者評価 項目及び組織を検討	岐阜県
3	榎本 俊弥	専門学校読売自動車大学校 校長	ヒアリング調査・第三者評価 項目及び組織を検討	東京都
4	三浦 一郎	専門学校新潟国際自動車大学校 校長	ヒアリング調査・第三者評価 項目及び組織を検討	新潟県
5	古澤 幸治	専門学校広島工学院大学校 副理事長	ヒアリング調査・第三者評価 項目及び組織を検討	広島県
6	清末 裕貴	専門学校北九州自動車大学校 教務課長	ヒアリング調査・第三者評価 項目及び組織を検討	福岡県

第 2 章 事業の目的及び内容

1. 事業の背景
2. 事業の目的
3. 事業の内容
4. 成果の活用方法

第2章 事業の目的及び内容

1. 事業の背景

近年のクルマは、動力性能や運動性能、安全性、快適性、統合制御、環境、エネルギー対応などの技術とネットワークが発展し、新たなシステム間の技術連携が進んでいる。その結果、従来のガソリン、ディーゼルエンジン車からクルマが進化し、電子制御されたハイブリッド車や電気自動車、燃料電池車などの次世代自動車が開発、販売されている。

これら進化したクルマの性能を維持するためには、高度化された整備技術により診断・整備を行うことが求められている。

クルマの整備は、1, 2, 3 級自動車整備士の国家資格を持った者が実施することが定められているので自動車整備士は、高度な知識と技術が要求されるようになってきた。

しかし、企業は、有能な人材を多数、希求している現状であるにもかかわらず、少子化や若者のクルマ離れ、大学への進学熱などの理由により自動車整備を学び、職業にしようとする若者が減少している。

このような現状を踏まえ、産学官が一体となって様々な課題を解決しなくてはならないため、JAMCA では自動車整備を目指す学生が教育の質を保証された中で興味あるカリキュラムのもとで学び、産業界に求められる人材となるよう本事業を実施する。

2. 事業の目的

自動車大学校、整備専門学校などの職業実践専門課程は、電子制御化により進歩したクルマ技術に堪能で人間力を備え、産業界が要求する人材を育成する教育をいかに提供できるかについて調査、研究し、あわせて求められる人材の具体像を検証する。

具体的には、学生が産業界に入った時に自信を持って次世代自動車を診断・整備でき、お客様に対して説明能力を持つとともに営業のできる人材の育成カリキュラムを考え、企業にもろ手を挙げて受入れられる人材を養成するなど職業教育の推進を図ることを目的とする。

3. 事業の内容

時代が要求する電子制御化された次世代自動車を診断、整備するエンジニアを育成する職業実践専門課程の教育方法を追求するために次のような方策を実施する。学生を取り巻く環境である保護者や卒業生、就職先企業、関係有識者などの意見を広く聴収して教育方法、教育内容などを確立するべく各方面にアンケート、ヒアリングなどを実施し、これらの結果をもとに各分科会、全体会で分析結果を精査して具体策を確立する。

また、各学校の教育目標の設定、達成に向けて学校評価を充実させ、教育の力点の検討、教育活動、学校運営を円滑に行うべく第三者による客観的評価基準に基づく教育運営の課題や改善点を明確にしていく。

4. 成果の活用方法

本事業の成果は、報告書として取りまとめ JAMCA 会員校、専修学校関係者へ配布する。

事業成果報告書規模：500 冊

第3章 実施経緯とスケジュール

1. 実施経緯とスケジュール
2. 会議議事録

第3章 実施経緯とスケジュール

1. 実施経緯とスケジュール

本事業「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」は平成26年8月1日に受託し、平成27年3月まで検証・開発した。その間に「全体委員会」：5回、「全体合同委員会」：1回、「アンケート調査委員会」：4回、「ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会」：9回を開催した。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
全体委員会	○	○	○	○			○
合同全体委員会		○					
アンケート調査委員会		○	○	○	○		
ヒアリング調査及び 第三者評価検討委員会		○	○ (3回)	○ (3回)	○ (2回)		

2. 会議議事録

本事業における実施委員会の実施報告は以下の通りである。

全体委員会

会議名	第1回全体委員会
開催日時	平成26年8月18日(月) 午前10時30分～午後12時10分
場所	JAMCA事務局(東京都新宿区大京町31番地 ヴィッパ新宿御苑1101号)
出席者	中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長 静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【会議の目的】</p> <p>職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成26年度「Ⅲ.「職業実践専門課程に係る取組の推進 (ii)「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」事業の内容確認と各委員会の実施予定の確認を行い、プロジェクトを進めていく上での問題点、疑問点などを検討・協議した。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業内容について 2) 事業実施方法について 3) 各委員会実施について 4) その他・質疑応答 3. 諸連絡・次回開催日の調整 4. 閉会 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加委員の紹介及び担当組織の確認を行なった。 ・幹事校及びJAMCAより事業委託に至るまでの経緯、事業目的等の説明を行なった。 ・事業計画をもとに計画内容の説明及び各委員会の役割について具体的内容を確認した。 ・各委員会の具体的運用について検討を行なった。 <p>【各委員会の運営について】</p> <p>「全体委員会」「アンケート調査委員会」「第三者評価項目及び組織検討委員会」と3委員会での活動となるが、委員の在籍地によって距離の問題があるので、全員参加を必須とはせず参加可能な委員による活動とし、内容の共有はメール等で行なう。また、「全体委員会」は事業全体の企画と他2委員会のまとめを役割とする。</p>

「アンケート調査委員会」「ヒアリング調査及び第三者検討委員会」それぞれの担当校は決まっているが、担当者が決まっていないので事務局が早急に連絡を取り決定する。なお、初回会議は9月上旬を目標に実施する。

- ・アンケート内容について具体的に検討を行なった。

【アンケートについて】

アンケートは学校自体がどういう段階にいるか現状把握(自己評価のみか、学校関係者評価までか、第三者評価についてどう考えているか)を行なう。

以下具体例：

- ・教育成果を外部に公開しているか(公開しているなら何を公開しているか)？
- ・外部から意見をもらっているか？
- ・内部で検討して改善しているか？
- ・自己点検・自己評価しているか？
- ・第三者評価は将来必要かどうか？

採用企業にもアンケートを取ってはどうかとの意見が出る。これは採用側が求める人材について考察し、評価項目化を行い、効果を検証できる仕組み作りが可能になる。また、企業として第三者評価に加わり、人事担当者が公式な機関で意見を言える場を提供できる可能性も出てくる。

採用企業の求める人材も、以前は「2級を取っていれば企業側で育てる」であったが、現在は「2級は取っているがすぐに役に立たない」というように変化している。

アンケートの実施は10月初旬を目標とする。

- ・ヒアリング調査内容について具体的日程の検討を行なった。

【ヒアリング調査】

第三者評価を実施済みの専門職大学院・自動車関連等の大学を対象とし、都内3校、帝京大学(宇都宮)、金沢工業大学(石川県)を予定している。

帝京大学へのヒアリング日程は9/中旬以降、また委員選任が決定後金沢工業大学の日程調整を佐藤校長が調整する。

- ・その他意見交換

第三者評価の今後のあり方について検討を行なった。

- ・諸連絡

アンケート集計後のグラフ作成、ドキュメントのまとめは丸星へ委託をする。

- ・次回開催 9/26(金)午前開催予定



会議名	第2回全体委員会
開催日時	平成26年9月26日(金) 午前11時30分～午後12時10分
場所	アルカディア市ヶ谷 私学会館(東京都千代田区九段北4-2-25)
出席者	<p>中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長</p> <p>元国土交通省自動車局 樋口忠夫 技術安全部長</p> <p>元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長</p> <p>元東京自動車大学校 小谷将彦 校長</p> <p>静岡工科自動車大学校 平井一史 校長</p> <p>東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長</p> <p>JAMCA 大西純一 事務局長</p>
議題等	<p>【会議の目的】</p> <p>各委員会メンバーの自己紹介の実施。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員挨拶 3. 本日の会議スケジュールの確認 4. 事業計画の確認 5. 次回開催日の調整 6. 閉会 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加委員の紹介及び担当組織の確認を行った。 ・本日の会議スケジュールについての確認を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体委員会 ・合同全体会議 ・アンケート調査委員会 ・ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会 ・事業計画をもとに計画内容の説明及び第三者評価の必要性について説明を行った。 ・各委員会の具体的運用とスケジュールについて確認を行った。 ・第三者評価については長い目で見ることが必要であり、今年度だけの活動に留まらず、来年度も継続の必要があると推測される。 <p>・次回開催日時：10/21(火) 午後2時～</p> <p>場所：JAMCA事務局(東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号)</p>



会議名	第1回全体合同全体会議
開催日時	平成26年9月26日(金) 午後1時00分～午後1時40分
場所	アルカディア市ヶ谷 私学会館(東京都千代田区九段北4-2-25)
出席者	<p>中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 文部科学省 専修学校教育振興室 春田鳩磨 係長 文部科学省 専修学校教育振興室 大坂香織 専門官 元国土交通省自動車局 樋口忠夫 技術安全部長 元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長 元東京自動車大学校 小谷将彦 校長 静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 JAMCA 大西純一 事務局長 北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 YIC 京都工科大学校 野上悟 第一教務主査 広島自動車大学校 古澤宰治 校長 九州工科自動車専門学校 中原勝宣 校長 中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長 読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 新潟国際自動車大学校 三浦一郎 校長 北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長</p>
議題等	<p>【会議の目的】 文部科学省担当者より「職業実践専門課程」「第三者評価」についての説明。 事業実施者の自己紹介の実施。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 事業責任者挨拶 3. 「職業実践専門課程」「第三者評価」についての説明 4. 委員挨拶 5. 事業計画の確認 6. 閉会

【内容】

- ・文部科学省担当者より「職業実践専門課程」「第三者評価」についての説明が行なわれた。
- 文部科学省の有識者会議において、新たな枠組みの趣旨を専修学校の専門課程における先導的思考として「職業実践専門課程」が決定され、平成26年4月より認定された学科がスタートした。

【認定要件について】

自己点検評価に外部からの目を入れるため、学校関係者評価を行うと共に、情報を公開する。

【職業実践専門課程について】

認定して終了するのではなく、「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」の事業を開始している。

●事業の内容について

- ・効果的な学校評価のあり方を検討して全国に普及する、学校評価充実のための委託事業
 - ・「職業実践専門課程」の推進を担う教員研修モデルの開発・実証
 - ・「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究
 - ・「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取り組みの推進
- 今回の活動にあたる

●委託先についての説明

●事業の具体的内容について

- ・職業実践専門課程の各認定要件等に関する先進的取り組みの推進
- 8分野を中心とした業界別に、専門学校を中心にコンソーシアムを構築する。
- コンソーシアムの下で、職業実践専門課程の各認定要件及び第三者評価等に関する先進的な取り組みを推進し、持続的に取り組みがなされるような体制の構築を目指す。
- 事業の実施に際しては、他のコンソーシアムと情報共有を行い、より効果的・効率的な取り組みとする。
- モデル事業としての成果を取りまとめて全国に発信し、専修学校全体の実践的な職業教育の水準の維持向上につなげる。

●事業内容のイメージについて

さらなる質保証・向上の取り組みの推進として、業界別に第三者評価の評価基準・体制を構築して実証する。

→今回の活動にあたる

【第三者評価について】

「自己目標の設定」と「第三者評価の実施」を踏まえて実施する。

・自己目標の設定

第三者評価を実施するにあたって、基準策定にあたる目標の設定

・第三者評価の実施

職業実践専門課程としての要件を満たしつつ、学校が設定した目的・目標を達成できているかに

について、社会との接続の観点を含めて評価を行う。

●第三者評価の評価観点

- ・ 設置基準等
- ・ 職業実践専門課程認定要件
- ・ 学修成果等
- ・ 内部質保証

以上、客観的評価を社会に発信していくことで、新しい高等教育機関の制度化において大きく活用されていくことが期待される。

- ・ 事業実施者の紹介及び担当組織の確認を行った。
- ・ 事業計画をもとに計画内容の説明及び各委員会の役割について具体的内容を確認した。



会議名	第3回全体委員会
開催日時	平成26年10月21日（火） 午後1時30分～午後4時30分
場所	JAMCA 事務所（東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号）
出席者	中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 元東京自動車大学校 小谷将彦 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【会議の目的】 次回のヒアリング実施についての報告 アンケート内容についての意見交換</p> <p>【配布資料】 ・「職業実践専門課程」に対するアンケート（案）① ・「職業実践専門課程」に対するアンケート（案）②</p> <p>【次第】 1. 開会 2. 第三者評価コンソーシアムと第三者評価フォーラムについて 3. 次回のヒアリングの予定について 4. アンケートの内容について 5. 閉会</p> <p>【内容】 ◆開会 ・連絡調整会議について 11/6に、各第三者評価コンソーシアムの報告を行う。その際に使用する資料を作成する。 ・第三者評価フォーラムについて ・JAMCA組織および各学校の取り組みについて説明をする。 ・第三者評価の経緯についての報告をする。</p> <p>◆次回のヒアリングの予定について（11/12） ・東京電機大学：JABEEの取り組みについてヒアリング ・文化服装学院：ファッション分野における専門職の取り組みについてヒアリング ・当日のヒアリング委員会では、金沢工業大学視察についての打ち合わせをする予定 ※金沢工業大学視察は、12月10～11日、16～17日が候補日（10/21現在）</p> <p>◆アンケートの内容について 【アンケート内容の検討事項】</p>

- ・自動車整備の分野についての設問をアンケートは加えられないか。
⇒自動車整備や第三者評価についてのアンケートは、各校がそのレベルに達していないので、初年度は触れなくても良いのではないか。
 - ・職業実践専門課程、自己評価、第三者評価だけでは、現状把握のみで各校の意思表示が伝わってこないのではないか。
⇒「職業実践専門課程」に対するアンケート（案）①をベースにすれば問題はない。
 - ・「自己評価」を行っているか？「行わないのはなぜか？」のような質問を追加した方が良いのではないか。
 - ・自動車整備独自の設問を追加すると、議論のみで時間が経過してしまう。
⇒年内中に、アンケートの集計までを終わらせなければならないため、次期の設問として検討する。
 - ・11/7までにアンケート発送 → 11/20過ぎまでに返送 → 11月末までにアンケート集計の予定。
 - ・将来についてのアンケートは、難しい。（学校としてどうしたいか、など）
 - ・自己評価等を行わない側の掘り下げた設問を増やした方が良い。（「行っていない」の回答のみで終わってしまうため。）
⇒「なぜ自己評価を行わないのか」「どのように学校教育を取り組んでいるか」など掘り下げた設問が必要である。
 - ・現状、ガイドラインに沿った自己評価を行っていない学校も多いのではないか。
⇒文科省のガイドラインに沿った自己評価を行っているか否かの設問は必要。
 - ・自己評価を行っていないところから、どのように現状や考え方を吸い上げるか、アンケートを再考する。
 - ・人材像に関する設問を再考する。
 - ・（企業等からの）学校関係者評価についての設問について再考（追加）する。
- 【第三者評価について】
- ・共通部分（専門分野以外）の評価項目は、自己評価と第三者評価は同じ。（評価機構の場合）
⇒評価機構のガイドラインは、第三者評価を行っているところの自己評価の項目をベースに作成しているため、基本的に評価項目が合致している。
⇒職業実践専門課程で第三者評価を行っていない学校の場合は、自己評価を行っていることが前提となるため、自己評価項目で第三者評価を行うことになる。
⇒アウトプットをイメージして、自動車整備独自のものを考えていく必要がある。
手間を軽減しながら特徴づけをしていく。

- ・ 第三者評価の評価者の立場で、評価結果が180度異なる。
- ・ 第三者評価を行う側の姿勢によっても、内容が変わってくる。
 - ⇒ 評価機関に頼ると、型に嵌ってしまう恐れがある。
 - 結果が変わってくるため、自ら行わないと意味がない。
- ・ 自動車整備で独自の評価機構を作る必要がある（JAMCAで作る）。
 - ⇒ 第三者評価対象校ごとに、評価結果が変わってしまうため。
 - ⇒ 第三者評価は現状義務化されていないので、どの機関が行っても大丈夫な状況。
- ・ 理事会の意見を組み込む必要がある。（12/3 理事会）
 - ⇒ 理事会に JAMCA の方向性を確認する必要がある。
- ・ 独自の機構を作るために、次回の文化服装学院のヒアリングは意義がある。
- ・ 第三者評価の取り組みを進めていき、質を高めるのも一手段である。
- ・ JAMCA のような組織を持っている専門学校の分野は他にはないため、評価機構を頼るところが多い。
 - ⇒ JAMCA の独自性を出す必要がある。
 - ⇒ JAMCA の実績のアピール（他分野とは違う、組織について、教育の質を上げる努力など）を成果物で訴える必要がある。



会議名	第4回全体委員会
開催日時	平成26年11月7日(金) 午後1時30分～午後3時30分
場所	JAMCA 事務所(東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号)
出席者	<p>中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長</p> <p>文部科学省 専修学校教育振興室 春田鳩磨 係長</p> <p>元国土交通省自動車局 樋口忠夫 技術安全部長</p> <p>元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長</p> <p>東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長</p> <p>静岡工科自動車大学校 平井一史 校長</p> <p>元東京自動車大学校 小谷将彦 校長</p> <p>JAMCA 大西純一 事務局長</p>
議題等	<p>【会議の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート委員会、ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会の活動経過報告。 ・ 連絡調整会議の内容報告。 ・ 今後の活動予定についての確認。 <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. アンケート委員会についての経過報告 3. ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会の経過報告 4. 連絡調整会議について 5. 今後の活動予定について 6. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆開会 本日の議事についての説明。</p> <p>◆アンケート委員会についての経過報告 アンケート(案)最終形の配布、及び設問内容の報告をした。</p> <p>【アンケート実施の懸念事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学校(50校)がアンケートに協力してもらえるのか? ⇒問題ない。返信が来ない場合は、督促を行う。 ●文科省より <ul style="list-style-type: none"> ・ 設問13～16について(委員会設置等)がわからない学校があるのではないか。 ・ 文科省のアンケートと重複しているところも質問する必要があるのか。

【アンケート最終形の要修正事項】

- ・アンケート回答の際の誘導がわかりにくい。
⇒回答により設問が分岐する場合のスキップの指示を追加する。
- ・学校関係者評価、第三者評価についてのアンケートでは、「評価を行っているか？」の設問を最初に入れる。次に必要性を問う形に統一する。
- ・設問 No. 22、23、24 については、重複しているので、整理する必要がある。

●文科省より

- ・メリット／デメリットがありますか？などの設問には、選択肢に「特になし」を追加する。
- ・「自己評価を行っているか」の設問を追加する。
⇒自己評価を知らないところが4割あるのが現実のため、追加した方が望ましい。
- ・アンケートを行う共通認識が必要である。

<アンケートの目的>

- ・職業実践専門課程について認識をしてもらう。
 - ・自己評価が法令義務になっていることの認識と、自己評価実施の成果を調査するため。
- ※ 職業実践専門課程に関するリーフレットを同封する（文科省の資料）。

【学校関係者に関するアンケートについて】

- ・アンケート（案）最終形の配布、及び設問内容の報告をした。
- ・職業実践専門課程認定校の13校のみを対象とする（無記名回答）。
- ・アンケートの目的：学校関係者は、どのような思いで評価を行っているかを調査するため。

<学校関係者アンケートの懸念事項>

- ・外部に協力依頼するため、現状ではアンケート調査の目的についての前段の説明が不足しているのではないか。
- ・現状では、アンケートの目的と結果の活用が曖昧ではないか。
- ・企業（学外者）からの活きた声を知ることができるメリットはある。
⇒企業に聞くのは意味があること。ただし、設問内容を変更することが必要である。

◆ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会の経過報告

- ・第三者評価そのものを知る必要があることからヒアリングを実施した。
- ・今年中に、4つの学校と1つの団体にヒアリングする予定である。
- ・10/9実施の委員会の報告
次年度に第三者評価の実証実験を行うため、今年度はアンケート調査及びヒアリング調査を行い、検討を行うことへの意識調整をした。
- ・第1回ヒアリングの報告
評価機構の説明を行った。
 - 大学と専門学校の評価の違いについての説明

・第2回ヒアリングの報告

柔道整復師の第三者評価の取り組みについての説明を行った。

- 柔道整復師では学校のカリキュラムに差が生じたため、第三者評価を取り入れる
- 分野別（専門性）評価の必要性について（専門学校は、出口（就職先）が明確なため）

・11/12（水）に次回委員会とヒアリング調査を行う予定である。

次回ヒアリング対象：東京電機大学 → JABEE の取り組みについて

文化服装学院 → 専門職大学院の取り組みについて

・12/10、11に金沢工業大学へ調査予定である。

→JABEE の取り組みが進んでいるため、現状の調査を行う。

新しい方向からの調査、第三者評価のための基礎作りには必要である。

◆連絡調整会議（コンソーシアム）について

・11/6（木）に第2回連絡調整会議が開催された。

・JAMCA は、プロジェクトの進捗が遅れているように思われる。

・調整会議資料の補足説明を行う（資料P.3～12）。

◆今後の活動予定について

・アンケート委員会では、12月初旬にアンケート集計結果の検討を行う予定である。

・ヒアリング委員会では、12月の金沢工業大学のヒアリングを最後に、来年に向けて第三者評価の組織や項目等の検討を行う予定である。

・第三者評価についての検討案が出る来年の1月頃に、次回全体委員会を招集する予定。

・自動車整備に特化したところを明確にする必要がある。

・機関別評価、評価項目、会員の負担にならないように、等々考えながら来年に向けて活動する。

●文科省より

・他分野（8分野）の進捗状況を説明した。

- 半分の分野では、素案（基準等）はできている。

- 学校の評価に関して細部まで項目を設定しているところ、学修成果として学生の能力に注視して基準を設定しているところなど、各校にばらつきがある。

・他分野でプロジェクトが進行しているところを参考に、JAMCA の全体委員会で議論する必要がある。

・全体委員会では、全体の方向性について議論をし、有効に活用した方がいいのではないか。

◆その他

・各校の国家資格に関する教育レベルはしっかりしている。しかし、人材目標は資格取得だけを目標としていないため（社会に貢献すること）、教材、教員の強化だけではなく、アウトプットを睨んだ評価や改善のためのシステムの部分を第三者評価として意識してほしい。（連絡調整委員会にて）

●文科省より

・学校の特色を社会にアピールできるような、第三者評価を構築してほしい。

・第三者評価に対する意識を、JAMCA 及び JAMCA 以外の学校でも広めてほしい。



会議名	第5全体委員会
開催日時	平成27年2月3日(火) 午前10時00分～午後12時20分
場所	JAMCA 事務所(東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号)
出席者	<p>中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長</p> <p>文部科学省 専修学校教育振興室 春田鳩磨 係長</p> <p>元国土交通省自動車局 樋口忠夫 技術安全部長</p> <p>元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長</p> <p>元東京自動車大学校 小谷将彦 校長</p> <p>静岡工科自動車大学校 平井一史 校長</p> <p>東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長</p> <p>中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長</p> <p>JAMCA 大西純一 事務局長</p>
議題等	<p>【会議の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書作成のための、事業内容の方向性(骨子)の確認 ・ 1/16の第三者評価フォーラム(大阪)の報告 ・ アンケート調査、ヒアリング調査の活動内容の報告 ・ 第三者評価の骨子の報告 <p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料① 「職業実践専門課程」の第三者評価フォーラム ・ 資料② 文部科学省委託事業に関わるJAMCA会員校に向けたアンケート ・ 資料③ 専門学校の評価に関するアンケート(企業) ・ 資料④ アンケート調査まとめ ・ 資料⑤ アンケート調査(学校関係者評価委員)まとめ ・ 資料⑥ 自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価の方向性について ・ 資料⑦ JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧表(試案) ・ 資料⑧ 成果報告書(表紙、目次) ・ 資料⑨ 職業実践専門課程の平成26年度申請状況について <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 第三者評価フォーラムの報告 3. アンケート調査結果の報告 4. JAMCAにおける第三者評価構築(評価基準策定)の基本的な考え方の報告 5. 報告書の目次案について 6. 全体報告会について 7. 意見交換 8. 閉会

【内容】

◆開会

2月20日を目途に、報告書を作成する必要があるため、今回の事業内容の方向性（骨子）の確認を行う。

◆第三者評価フォーラムの報告

1月16日に大阪で開催された第三者評価フォーラムの報告を行う。

※資料①を参照

◆アンケート調査結果の報告

会員校、および学校関係者評価委員（企業）を対象に実施したアンケート結果の報告を行う。

●アンケート対象

・会員校：50校

・学校関係者評価委員（企業）：職業実践専門課程認定校13校（アンケート回答29件）

※資料④、⑤参照

◆JAMCAにおける第三者評価構築（評価基準策定）の基本的な考え方の報告

・アンケート調査とヒアリング調査の結果をもとに、第三者評価の骨子を作成した。

⇒全体委員会の委員へ方向性の確認をしたい。

※資料⑥参照

・平成26年度事業 第三者評価についての骨子（案）の説明を行う。

-機関別評価

現状の第三者評価項目を整理し、「要件・基準の適合」「仕組み・組織の存在」「アウトプットの評価」「アウトカムの評価」と段階的な評価にする。

⇒職業実践専門課程、および国交省の要件についての選別する必要がある。

※機関別評価の分析については、資料⑦を参照

-分野別評価

業界に向けての各校からの発信（方針、特徴、取り組み）を評価項目としていきたい。

⇒評価結果を公開することにより、JAMCAで共有できる。

⇒JAMCAの全体的な質保証の向上となる。

◆報告書の目次案について

初期の目次案から以下の項目を追加する。

・大阪でのフォーラムの内容

・アンケート調査結果

・国交省の監査の調査項目と自己評価の項目

※資料⑧を参照

◆全体報告会について

会員校の第三者評価の意識を高めるためにも、開催することとする。

日時：2月24日（火） 13：30から

場所：未定（アルカディア市ヶ谷、または東京工科を予定）

※本日の委員会の内容をベースに、第三者評価の骨子を説明する予定。

◆意見交換

・JAMCAの会員校の学生は、各地域周辺か、全国区か？

⇒ディーラー系の学校は全国区だが少数であり、ほぼ地元中心になる。

・地域の枠を越えて第三者評価を実施するために、どのような取り組みをするか。

⇒地域の枠を越えた第三者評価を実施すれば、各校の取り組みを確認できるため、良い方向に進む結果になる。

- ・近年の傾向では、自動車整備資格を取得していても、別業種に就いている人がいる。
⇒他業種に流れないように努力をしてほしい。就職後の定着につながる。
⇒就職定着率向上の努力や、学校と企業の連携など、各校の特徴を活かしたものを分野別評価で実施していきたい。
- ・来年度以降の活動はどのようになるのか。
⇒来年度も継続する予定。今年度は、体制基準を作り、来年度は実証を行う。
- ・アンケート調査結果の将来的な活用について、明確にする必要がある。
- ・第三者評価についてのプロセスや問題点などを、もう少し明確化する必要があるのではないか。
- ・会員校以外の学校に対して、事業内容の認知については、どのように考えるか。
⇒最低でも排除せずに、事業報告書を配布する。
⇒将来的に、自動車整備士業界全体に対しての目標、オピニオンリーダーとなるような第三者評価の取り組みをする。

●文科省からの意見・要望

- ・自動車整備業界に特化した評価をするということや、JABEEの取り組みを参考にすることは良いが、進捗が遅いように見える。
- ・報告書では、JABEEの内容を参考に作成してほしい。
- ・アンケートの調査結果を踏まえて次に何をするかを、報告書に加えてほしい。
- ・19日の連絡調整会議では、事業が進んでいるような報告（見え方）にしてほしい。
- ・JAMCA以外の学校（自動車整備士業界全体）を含めることを視野に入れてほしい。

◆報告書について

3月13日 文科省へ報告書を提出する。



アンケート調査委員会

会議名	第1回アンケート調査委員会
開催日時	平成26年9月26日（金） 午後1時50分～午後3時00分
場所	アルカディア市ヶ谷私学会館 4F 鳳凰の間（東京都千代田区九段下4丁目2番25号）
出席者	静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 YIC 京都工科大学校 野上悟 第一教務主査 広島自動車大学校 古澤幸治 校長 九州工科自動車専門学校 中原勝宣 校長 文部科学省 専修学校教育振興室 大坂香織 専門官 日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問
議題等	<p>【会議の目的】</p> <p>アンケート調査委員会の方向性、作業分担および今後のスケジュールの確認とプロジェクトを進めていく上での問題点、疑問点などを検討・協議した。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員挨拶 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) アンケート調査についての説明 2) 副委員長の選任 3) その他・質疑応答 4. 諸連絡・次回開催日の調整 5. 閉会 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加委員の自己紹介を行なった。 ・アンケート調査委員会の説明を行なった。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業計画書ではアンケート委員会は8月開始の4回開催の予定でしたが、9、10、11月の3回開催とし、以降はメール等で連絡を取り合うこととする。 2) 現状把握のため「会員校へのアンケート（50校）」および「学校関係者評価に係った関係者へのアンケート（13校）」を行なうが、そのアンケート項目を決めなければならない。 3) 平井委員長が作成されたアンケート項目のたたき台をもとに、各委員が追加・修正を行い次回会議にて、ブラッシュアップを行う。（9/29にデータ送付） 4) 文部科学省の「自己目標の設定」には「ある程度分野共通的なものとなることを意識した上で、

個別の分野に即した具体的な指標を設定する。」という指標があり、アンケート内容に盛り込む必要がある。

- 5) ポイントは我々が企業ニーズに合った人材を送り出すための人物像を明確にして、そのためにどのような教育をするかを決定し、具体的にアンケート内容に盛り込むことである。あくまでも現状把握なので、良い結果を求める必要はない。
- 6) PDCA サイクルが回っているか、意識付けできるアンケート項目があると良い。
- 7) 会員校の現状について付随して国土交通省指定の専門学校基準および職業実践専門課程としての取り組み事例を報告書に入れるべきではないか。国土交通省指定専門学校基準についてはヒアリング委員会にまかせて、職業実践専門課程としての取り組み事例をアンケート調査委員校で担当する。→静岡工科自動車大学校、北日本自動車大学校にて事例作成を担当
- 8) JAMCA 会員校は「こういう基準」で「こういう取り組み」をしている。実際に事例はこうです。では実際の状況はどうか。第三者評価ではどういう項目が必要か。というようなシナリオを作っていきたい。
- 9) 職業実践専門課程を取得する事に手助けとなる項目作りも必要である。JAMCA 会員校の全校が取得できることが望まれる。
- 10) アンケートは結果を導くような設問を作らないように心がける。「第三者評価」「自己点検評価」などの言葉をわかりやすく説明した方が良い。基本的内容のドキュメントは文部科学省より JAMCA 事務局へ 55 部ほど送ってもらう。

・ 東京工科専門学校世田谷校 小林校長に副委員長を担当してもらうことが決定した。

・ 次回開催は 10 月 6 日（月）午後 1 時から JAMCA 事務局で行なう事とする。



会議名	第2回アンケート調査委員会
開催日時	平成26年10月6日(月) 午後1時00分～午後3時00分
場所	JAMCA 事務所(東京都新宿区大京町31番地 ヴィッパ新宿御苑1101号)
出席者	静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 文部科学省 専修学校教育振興室 春田鳩磨 係長 日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【会議の目的】 各委員が作成したアンケートのたたき台の内容をもとに、設問内容を検討・協議した。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. アンケート内容の検討・協議 3. 諸連絡・次回開催日の調整 4. 閉会 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの表題の「自己点検・評価」を「自己評価」とする。 ・「職業実践に関するアンケート」をアンケートの冒頭に追加するか検討を行った。 ・現状、自己評価を公表している学校は、全体の6～7割である。 ・アンケートの設問のみで吸い上げられない意見は、記述式で回答してもらう。 ・アンケート結果は、分析して問題点を洗い出し、会員校の要望を含めた今後の方向性を決める資料とする。 ・現状、第三者評価を行っている会員校はないと思われるため、第三者評価についてのアンケート内容を検討した。 ・アンケートの鏡文に、趣旨(職業実践専門課程の認識の周知)を示した上で、そのための課題・問題点を出して欲しい旨を記載する。 ・アンケートは、会員校を対象とする。 ・本日の検討結果を盛り込んだアンケートを、小林先生が再作成する。 ・アンケートの鏡文と第三者評価についての設問については、平井先生が担当する。 <p><文部科学省から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職業実践に関するアンケート」は、現在、職業実践専門課程の申請していない学校に対してのみ意味のある内容ではないか。 →申請の準備段階での課題を調査した方が良い。(現状の課題を想定しながら) <p>○ 設問例 :</p>

- ・職業実践専門課程の申請を考えているか？
 - ・申請はいつ頃の時期を考えているか？
 - ・申請にあたっての課題はあるか？
 - ・JAMCA のサポートを希望するところはあるか？
 - ・職業実践専門課程についてどのように考えているか？ など
- ・文部科学省の委託事業には、以下の2つの柱がある。
- ・職業実践専門課程の認定校を増やしていきたい。
 - ・第三者評価をどのように進めるか。
- 今年度中に枠組みを決めて、来年度に実施する。

【アンケートの内容】

アンケートは「職業実践専門課程について」と「自己評価について」の2本の柱とする。

1. 鏡文

- ・アンケートの趣旨
- ・自己評価を実施しているか？（中原先生案）
- ・法令義務の認知度についての確認

2. 職業実践専門課程に関するアンケート

- ・職業実践専門課程の申請にメリットを感じるか？デメリットはあるか？

3. 自己評価に関するアンケート

- ・「自己評価が法令で義務付けられていることを知っていますか？」の設問を加えてほしい。
(文部科学省より)
- ・自己評価の詳細な実施項目については不要。
→ ・「ガイドラインを知っていますか？」「ガイドラインに沿って実施していますか？」などに変更する。
・ガイドラインについては、評価項目例を記載する。
- ・自己評価を行った結果、にメリットがあったかどうかは必要。(原本 設問 (4))
- ・企業（および国土交通省）が求める人材像があるか。
- ・営業ができる整備士の育成を目標としているか。
→達成できたかをどのように評価するか？そのための判断基準を決めているか？
→第三者評価の項目につながる。

4. 学校関係者評価に関するアンケート

- ・学校関係者評価の詳細な実施項目については不要。
→「自己評価に基づいて評価を実施していますか？」などに記載内容を変更する。
また、自己評価の実施項目から過不足がある場合は記載を求める。
- ・「学校関係者評価の方法は？」の選択肢の「学校関係者からアンケート調査を実施している」は、誤解を生む可能性があるので再考が必要。
→外部アンケートは自己評価の一環であるため。

5. 第三者評価に関するアンケート

- ・第三者評価についてイメージ、要望（進め方など）、項目などを調査する。
- ・学校としての目標や、学修成果を念頭においた人材像を調査してはどうか。（文部科学省から）

<アンケート内容について文部科学省からの要望>

以下の内容をアンケートに含めて欲しい。

- ・「職業実践専門課程」を知っているか。
→周知する意味で、職業実践専門課程の概要を説明した資料を同封してほしい。
文部科学省より、ガイドライン一覧と URL を送っていただく。

- ・次回開催は 11 月 5 日（水）午後 1 時から JAMCA 事務局で行なう事とする。



会議名	第3回アンケート調査委員会
開催日時	平成26年11月5日(水) 午後1時00分～午後3時00分
場所	JAMCA 事務所(東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号)
出席者	静岡工科大学 平井一史 校長 東京工科大学 世田谷校 小林完 校長 広島自動車大学校 古澤幸治 校長 九州工科大学 専門部 中原勝宣 校長 YIC 京都工科大学 野上悟 第一教務主査 日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【会議の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計結果検討までの日程の調整 ・アンケート最終形への検討 ・学校関係者(評価委員に対する)アンケートについての検討 <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. アンケート集計結果検討までの日程について 3. アンケートの設問内容について 4. 学校関係者アンケートについて 5. 次回開催日の調整と課題 6. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆アンケート集計結果検討までの日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/7(金)の全体委員会に提示して、内容の了承後、会員校へ発送する。 ・本日の要修正事項は、7日までに修正して全体委員会で提示する。 ・アンケート確定から、集計結果検討までの日程については、以下を参照。

アンケート内容確定～アンケート結果検討までの予定

		11/10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
アンケート 会員校	アンケート確定		編集		アンケート発送				(アンケート着)		回答及び返送期間				
アンケート 学校関係者	アンケート確定	検討	検討締切	アンケート内容	編集	アンケート発送					回答及び返送期間				
		24	25	26	27	28	29	30	12/1	2	3	4	5	6	7
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
			アンケート回収	集計		アンケート集計結果送付			集計結果考察			アンケート委員会			
		回答及び返送期間				アンケート回収			集計						

・アンケート集計の結果により、各委員の意見を集約して解説を加える（報告書に盛り込む内容として）。

◆アンケートの設問内容について

- ・前回から修正を加えたアンケートを配布
- ・アンケートの変更箇所の確認
 - 設問番号を通し番号にした
 - 問い合わせ先を追加（平井先生）
 - 柔らかい表現に変更
 - その他、表現の変更や削除設問等の確認
- ・鏡文については、齋木理事長と平井委員長の連名で送付する。（問い合わせ先：平井先生）

【今回配布アンケートの要変更箇所】

- ・職業実践専門課程についての自由回答欄を追加する。
- ・「ガイドライン」→「学校評価ガイドライン」に変更する（No. 24等）。

・ガイドラインに関する初出の設問に、「同封資料参照」の文言を加える（No. 24）。
※修正したアンケートは、11/6に事務局へ送付する。

◆学校関係者（評価委員に対する）アンケートについて

- ・学校関係者評価に関わる人に対するアンケートは、別のアンケートを作成して別送する。
⇒実際に評価委員に関わっている人や、企業等向けのアンケートを作成する（5～10問程度）。
- ・調査対象は13校（職業実践専門課程の認定を受けている学校）に限定×5、6人
⇒既に学校関係者評価を実施しているため
- ・アンケートに関わる外部の意見を吸い上げることは貴重。
- ・全体委員会までに作成して、承認後完成とする。
- ・7日（金）の午前中にアンケート内容についての打ち合わせを行う（小谷先生、平井先生、小林先生）。
⇒7日までに小林先生がたたき台を作成する。
- ・アンケート集計結果検討までの日程は、「アンケート集計結果検討までの日程について」参照。

【アンケートの設問内容（案）】

- ・学校側と外部の間にギャップを感じるか？など
- ・立場によって答えられない質問もあるのではないかと
⇒できる範囲で回答してもらおう
- ・自動車整備に特化した設問を作る
- ・学校の方針、人材像の一致／不一致（学校側と就職先）、授業の内容の一致／不一致
⇒授業の内容については、国交省が要望する時間や内容によるものが多い

◆その他

- ・アンケート委員会とヒアリング委員会の結果を小谷先生がまとめる。
⇒作成した文書を回覧し、各委員の意見を取り込む。

◆次回開催日と課題

- ・次回開催は12月4日（木）午後1時からJAMCA事務局で行う事とする。
- ・次回開催までに、各委員はアンケート集計結果の意見をまとめる。



会議名	第4回アンケート調査委員会
開催日時	平成26年12月4日(木) 午後1時00分～午後2時40分
場所	JAMCA 事務所(東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号)
出席者	静岡工科大学 平井一史 校長 東京工科大学 佐藤康夫 校長 東京工科大学 世田谷校 小林完 校長 広島自動車大学 古澤幸治 校長 九州工科大学 中原勝宣 校長 北日本自動車大学 山田恵一 広報部長 YIC 京工科大学 野上悟 第一教務主査 日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【会議の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート集計結果の確認 ・ 第三者評価素案作成についての検討。 ・ 第三者評価の実施についての意見交換。 <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. アンケート集計結果について 3. 第三者評価素案作成について 4. 他分野における第三者評価取り組みの現状 5. 第三者評価の実施についての考察 6. 意見交換 7. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆ アンケート集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート集計結果は、成果報告書に盛り込む。 ⇒ アンケート結果の詳細分析は、第2回目以降の報告書とする。 ・ 現状のアンケート回収状況は、49/50校が完了している。 ・ 学校関係者アンケートは、現状、一部回収済み。 <p>◆ 第三者評価素案作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果とヒアリング調査の結果から第三者評価の素案を作成する。 ・ 現状、JAMCAの会員校で、第三者評価を実施している学校はない。 ・ 職業実践専門課程が第三者評価を受けていく流れを作りたい、というのが文科省の考えである。 ・ 第三者評価の位置付け <ul style="list-style-type: none"> - 現状、第三者評価が義務付けられているのは大学のみであり、それは社会に接続している高等教育

機関であるため。

- 幼稚園から高等学校では、学校関係者評価が義務付けられている。
⇒大学と肩を並べるためには、専門学校での第三者評価が必要となる。
⇒JAMCA 会員校では、まずは職業実践専門課程の認定校を増やしていくことが必要。
- ・今回の活動で、JAMCA（学校）独自の第三者評価を実施するための素案と組織作りをする。
⇒2年目に実証実験を行う必要があるため。

◆他分野における第三者評価取り組みの現状

- ・コンソーシアム会議での他分野の状況として、ファッション、柔整などでは、第三者評価の組織を持っているところがある。
- ・既に第三者評価を実施しているところもある。そこへ分野別評価を取り入れようとしている。

◆第三者評価の実施についての考察

- ・第三者評価の評価機関
 - 機関別評価：設置に関して国の基準を満たしているか、学校の条件が整っているか等の評価
 - 分野別評価：出口の評価（業界の意見を聞く）
- ・職業実践専門課程における質の保証では、分野別評価までを取り入れた新しい第三者評価を創ることを文科省では期待している。
- ・専門学校は出口が企業であるため、専門学校独自の分野別評価を構築することが、専門学校の第三者評価をアピールできることになる。

- ・他分野の第三者評価の方向性は、機関別評価を従来通り実施した上で、さらに独自の評価組織で分野別評価を実施するという考えが中心。
⇒2階建て（機関別評価、分野別評価）で第三者評価を行うと、費用が掛かりすぎる。
- ・JAMCA では、現状、文科省および国交省からの要請を満たしているため、外部から評価（認定）されている。
⇒機関別評価は既に実施されているのではないかと。よって機関別評価は不要ではないかと。
⇒それら現状を中心とした報告書を作成する。
- ・JAMCA 独自の評価機構で、機関別評価と分野別評価を行うのが理想的である。
現状、他分野で機関別評価と分野別評価をひとつの評価機構で実施できないのは、国としての縛りが統一されていないためである。
⇒JAMCA では、国交省の監査で厳しい要求を満たしているため、それを機関別評価とした JAMCA 独自の分野別評価機構を構築することが可能ではないかと。
⇒JAMCA 独自の評価機構を現実化するために、アンケート結果をアピール材料としてまとめたものと、国交省の監査の仕組みについての現状報告を成果物に盛り込む必要がある。
 - アンケート委員で、アピールポイントをまとめる。
 - 監査の仕組みについての報告部分は、たたき台を作成し、内容を各校で確認してもらう。
- ・次年度に第三者評価自体の実証実験を行うのは難しいため、以下の実証実験が必要となる。
 - JAMCA 会員校で勉強会を実施し、第三者評価の意識を確認する

- 作成した素案で、第三者評価を試行する
⇒そのための準備を今年度の成果物とする。
- ・配布資料の説明を行う。
 - コンソーシアムでの「活動の現状について」の報告
 - 文科省からの資料の抜粋：第三者評価のあり方について
 - 第三者評価体制について
 - 美容分野における第三者評価の素案について

◆意見交換

- ・医療系の厚労省の監査はどのようなものか？
⇒国交省と同様の監査を受けている。
- ・他分野において独自の評価機構で第三者評価を実施できない理由はどのようなことか？
⇒既に実施している機関別評価を無視することはできないため。
現状、機関別評価を行っているところはあるが、分野別評価はいずれの分野も初めての試みである。
- ・リハビリテーション分野では、評価機構（全国リハビリテーション学校協会）を創り、大学、専門学校の9割が加盟している。
名目は第三者評価に準ずる機構で、評価内容は厚労省と同様。評価委員は準地元の理学療法士など。
⇒活動内容を調査する。
- ・第三者評価を行うことにより、学校が独自性を失ってはいけない。
理念を失わずに、質を上げることが大切。
- ・評価機構は、文科省が認定する。
JAMCA独自の評価機構の認定を前提として、報告書の内容にその方向性を含める。
- ・評価機構（第三者評価）の費用について試算する必要がある。
5年に1回を目安とするか（案）。（大学は7年に1回）
- ・職業実践専門課程では、学校関係者評価が義務付けられている。今後、第三者評価を実施しても、大学同様、学校関係者評価を行わなくていいことにはならない。将来の検討事項である。
- ・今回でアンケート委員会の会議は終了となる。
 - 今後の連絡は、メール等で行う。
 - 資料のまとめは、今月中に行う。



ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会アンケート調査委員会

会議名	第1回ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会
開催日時	平成26年9月26日（金） 午後1時50分～午後3時00分
場所	アルカディア市ヶ谷 私学会館（東京都千代田区九段北4-2-25）
出席者	<p>東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長</p> <p>文部科学省 専修学校教育振興室 春田鳩磨 係長</p> <p>JAMCA 大西純一 事務局長</p> <p>中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長</p> <p>読売自動車大学校 榎本 俊弥 校長</p> <p>新潟国際自動車大学校 三浦一郎 校長</p> <p>北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長</p>
議題等	<p>【会議の目的】</p> <p>委員会メンバーの自己紹介の実施。</p> <p>事業内容の確認。</p> <p>ヒアリング調査箇所についての説明。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員挨拶 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業内容について 2) 第三者評価実施校についての説明 3) 第三者評価のあり方について 4) 文部科学省からの要望 4. 次回開催日の調整 5. 閉会 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会メンバーの自己紹介を行った。 ・委員会の事業内容の確認を行った。 <p>【第三者評価のための調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に第三者評価を取り入れている専門学校/大学/大学院大学等の実態調査 →職業に特化した評価及び一般的な評価についての実態をヒアリングする。 ・成果物として、報告書を作成する (アンケート調査WG及びヒアリング調査、まとめを含めて一冊にまとめる予定) 報告書の内容には、JAMCAの活動及び会員校の教育内容についての紹介を入れる。 また、職業実践専門課程における取り組み実績を載せる。

- ① JAMCA 会員校の自動車整備教育に関する取り組みについての報告(ヒアリング WG 担当)
→国土交通省の基準の中で、内容、成果、企業からの評価についてまとめる
- ・ JAMCA 発行進学案内版、各校の学校案内を参考
- ② 自動車整備の学校における職業実践専門課程の実態についての報告(アンケート WG 担当)

・ 第三者評価実施校のヒアリングについての説明を行った。

【ヒアリング調査候補】

- ・ 学校法人文化学園 文化服装学院 (川合 直)
- ・ 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価機構 (真崎)
- ・ 東京電機大学(工藤教授)
→工業系の評価「JABEE」を実施している。
- ・ 上記3校のヒアリングを行った上で、加藤征 様 (信州医療福祉専門学校) (分野別第三者評価)
※自動車の専門課程がある大学の第三者評価は、自動車に特化していない第三者評価であるため、今回のヒアリング候補からは外す。

・ 第三者評価のあり方についての説明を行った。

- ・ 自己点検評価項目については『学校評価ハンドブック (Ver. 4.0)』P.11 を参照
- ・ 自己点検・自己評価を踏まえて、第三者評価を行う
- ・ 分野別第三者評価について
- ・ 第三者評価の質保証について
→『第三者による高等教育の質保証』(PPT 資料) を参照

・ 国土交通省の要望を基準とした教育内容を報告書に含めることの確認。

・ 文部科学省からの要望

- ・ 職業実践専門課程の実態の調査をする。
- ・ ヒアリング等の結果により、自動車専門学校に関する第三者評価の基準/体制/方法の草案を作成する。
- ・ 報告書に基づいた第三者評価を来年実施する。
- ・ 以下の観点を含めてヒアリングして欲しい。
 - －学習成果
 - 人材像を明確にして学科の目的・目標を設定しているか。
 - 設定した目的・目標が達成できているかどうかを、第三者が評価を行う。
 - ※人材像：
 - ・ どのような人材を育成するか
 - ・ 学習した学生がどのような能力を身に付け、自動車産業界においてどのようなことができるようになって卒業していくか
 - －内部質保証が保たれているかどうか

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 第三者評価・次回開催 10/7（火）、10/9（木）、10/10（金）のいずれか
（日時とヒアリング先は、佐藤康夫 校長が調整し連絡）
当日は、ヒアリングとミーティングを行う予定。
場合によっては、2ヶ所立ち寄る可能性もあり。・ 11月開催 11/12（水）～11/14（金）のいずれか |
|--|



会議名	第1回ヒアリング調査
開催日時	平成26年10月9日(木) 午前11時00分～午後12時15分
場所	私立専門学校等評価研究機構(東京都渋谷区代々木1-58-1 石山ビル6階)
講師	私立専門学校等評価研究機構 真崎 裕子 事務局長
出席者	<p>中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長</p> <p>東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長</p> <p>中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長</p> <p>読売自動車大学校 榎本 俊弥 校長</p> <p>新潟国際自動車大学校 三浦一郎 校長</p> <p>日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問</p> <p>JAMCA 大西純一 事務局長</p>
議題等	<p>【ヒアリングの目的】</p> <p>専門学校の評価機構における第三者評価実施についての聴取。</p> <p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料① 私立専門学校等評価研究機構概要 ・資料② 第三者評価システムの概要 ・資料③ 専門学校等評価基準書 Ver. 4.0 (抜粋) ・資料④ 評価のレベル ・資料⑤ 専門学校等第三者評価実施要項 ・資料⑥ 平成25年度第三者評価報告書 <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 私立専門学校等評価研究機構の概要の説明 3. 第三者評価システムの概要の説明 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門学校等評価基準書 Ver. 4.0 2) 評価の流れ 3) 評価レベル 4. 質疑応答 5. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆私立専門学校等評価研究機構の概要(資料①参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校等における第三者評価事業の経緯の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校にも自己評価+第三者評価の仕組みが必要ではないかとの結論から、平成16年に組織が設立された。 ・平成19年に初めて第三者評価を実施する(8校)。

以降、毎年数校（2～5校）実施している。

- ・私立専門学校等評価研究機構の組織および役員の説明
- ・会員校についての説明

◆第三者評価システムの概要（資料②参照）

- ・第三者評価の目的と方針の説明（P.3参照）
- ・第三者評価の流れの説明
 - ・対象校が自己評価を行う。
 - ⇒各校が、37の中項目を記述式で自己評価する。
 - ⇒資料（学則等）を添付して、自己評価報告書を提出してもらう。
 - ・評価担当部会による評価を行う。
 - －書面審査
 - －ヒアリング審査
 - －訪問調査
 - ⇒上記調査結果から評価原案を作成し、第三者評価委員会に提出する。
 - ・第三者評価委員による評価
 - 第一次評価結果を学校に通知する。
 - ・学校による異議申し立て
 - 不服がある場合など、異議申し立ての機会を設ける。
 - ・審査会の最終審査
 - 学校から異議申し立てがあった場合は、再度審査を行い、最終的な評価を確定する。
- ・評価機構の評価実施体制の説明（P.7参照）
- ・第三者評価システムの特徴
 - ・評価基準の視座
 1. 法令・設置基準をクリアしているか
 2. 高等教育に求められる事項や水準を満たしているか
 3. 卒業時の到達レベルを明確にし、それに基づく教育を行っているか上記基準が満たされていること。
 - ・小項目を設けた「専門学校等評価基準書」会員校に送付し、それに基づいて自己評価報告書を作成してもらう（資料③参照）。
 - ・自己評価と第三者評価の基準を一致させて評価を行う。
 - ・評価の最終表現について
 - －中項目については、項目ごとに「可」「否」（2段階のみ）の判定と、その判定理由をコメントで示す。
 - ⇒学校単位での「可否」は判定しない。
 - －大項目については、総合コメントを示す。
- ・今後の展望について
 - ・学校全体を網羅的に評価していきたい。

学校の理念、学校運営、教育活動、学修成果など。

- ・専門性に適合した形で評価を行う。
- ・評価スケジュールについて

本年度の場合

- －第三者評価申し込み期限：平成 26 年 7 月 18 日
- －自己評価報告書提出期限：平成 26 年 9 月 30 日
- －審査会の最終評価：平成 27 年 3 月末日
- －公表：平成 27 年 4 月 25 日

- ・評価費用について

1 回 120 万円（委員の報酬、会場費用など）

- ・評価のレベルについて（資料④参照）

- ・評価の範囲

- －インプット : 学生/教員の背景や、教育資源
- －プロセス : 「教育プログラムの仕組みがあり、運用されているか」が含まれる
- －アウトプット : 就職率、卒業率など
- －アウトカムズ : 学生が身に付けたスキル等が、就職後にどの程度役立っているかなど
文科省では、アウトプット/アウトカムズを学校で定めて欲しいと望んでいるのではないか。

◆第三者評価報告書の概要（資料⑥参照）

- ・評価報告書の表現の説明

改善を求める表現をする時もある（P. 53 参照）。

- ・最終報告書は、3 月 31 日までに冊子でまとめる。

その後、4 月 25 日ぐらいに、私立専門学校等評価研究機構と各学校のホームページに公表する。

その他、文部科学省記者会、東京都庁の記者クラブにも資料提供として提出する。

◆質疑応答

- ・大学と専門学校の評価の違いについて

- ・大きくは評価体制の違い

大学は、評価機関が 3 つある。

- －大学評価・学位授与機構：国立大学
- －大学基準協会：公立大学
- －日本私立大学協会：私立大学

- ・評価項目は両者とも似ている。

- ・大学は 7 年に一度評価を行っている。

- ・「PDCA サイクル（内部質保証）が学校で機能しているか」という項目を加えている。

- ・大学は研究活動に対する評価がある。

- ・「否」の評価結果について

過去、将来構造の項目について「否」がついたことがある。
計画／構想や、付帯教育／付帯事業などについての評価は難しい。
⇒現在、上記の評価項目は削除されている。
⇒評価項目は公表しているので「否」は付きにくい。

・ 良い学校、悪い学校のランク付けについて

ランク付けが目的ではなく評価結果によって学校の改善姿勢などを見てもらうことが目的である。

・ 監督官庁の規制が強い学校を評価したことはあるか

医療系学校の実績がある（厚生労働省）

・ 設置基準について

大学では法令遵守など、審査会で厳しく取り決められている。
基準適合性（教員の人数など）。

・ 国家資格取得が前提となっている（アウトプット）学校を評価したことはあるか

・ 医療系（リハビリ、OT・PT・ST、看護学校など）

・ 資格取得以外にも、例えば資格を取れない学生がいる場合の学校側のフォロー体制や、卒業後のキャリアアップ教育などの取り組みを評価する。

・ 評価担当部会の人選について

・ 現場の進路先の業界、資格取得のための団体の人に推薦してもらう

・ 現場の団体の人からの推薦が主

・ 専門学校は同じ分野の人選はしない



会議名	第2回ヒアリング調査及び第三者評価検討委員会
開催日時	平成26年10月9日(木) 午後1時00分～午後2時00分
場所	全理連ビル 会議室(東京都渋谷区代々木1-36-4 全理連ビル)
出席者	<p>中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長</p> <p>東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長</p> <p>中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長</p> <p>読売自動車大学校 榎本 俊弥 校長</p> <p>新潟国際自動車大学校 三浦一郎 校長</p> <p>日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問</p> <p>JAMCA 大西純一 事務局長</p>
議題等	<p>【会議の目的】</p> <p>第1回ヒアリング調査の意見交換。</p> <p>今後の方向性のすり合わせ。</p> <p>次回ヒアリング調査と今後の予定についての確認。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 副会長の挨拶 3. ヒアリングを受けての意見交換 4. 今後の方向性の検討 5. 11月のスケジュールの確認 6. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の目的について確認を行った。 ・第三者評価の調査についてヒアリングを行い、アンケート調査結果と合わせて、最終的にはJAMCAとしての第三者評価のあり方(組織・評価方法等)を決める。 ・来年度も継続するようであれば、実証実験を行っていく。 ⇒今年度中に方向性を決定する必要がある。 ・第三者評価の中身についてまで言及して、整理することを最終形とする。 <p>◆副会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の文部科学省の会議にて、委員会の調査内容を報告する予定。 <p>◆活動の目標とアンケート調査との関連性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終の到達目標: JAMCAの組織における、来年度に第三者評価の実証実験ができる準備とする。 ・ヒアリング調査とアンケート調査の関連性について

ヒアリング結果をアンケートに引き渡す（アンケートに反映する）。

⇒委員長が連絡会議を行いながら、ヒアリングの結果をアンケートに反映していく。

◆ヒアリング1を受けての感想、および今後のヒアリングの要望

- ・自動車整備専門学校の場合は、学修の目的がはっきりしているので、自動車整備専門学校共通の第三者評価基準を作ることが望ましい。メリットがあるような調査機構を作りたい。
今後、資格に応じた対応を具体的にどのように進めればいいのか課題である。
- ・第三者評価結果が一般の人に理解できないと、第三者評価の意味がないのではないかと。
⇒職業人を入れて評価した方が、より具体的な評価になるのではないだろうか。
柔整さんの聴取を参考に検討したい。
⇒作業委員会を設けるなどの検討をしたい。
- ・インプットは国の基準になるであろう。
- ・アウトプットでは、試験不合格者に対するフォローなどの基準を作成していくのが第三者評価の項目のひとつになるのか。
⇒国交省の基準は文科省の設置基準と違う。アウトプットが見える化。
- ・一般の人に理解できるように方向性を決めた方がいいのではないかと。
- ・一般の人に理解できるような、また社会、保護者、国交省などに評価を受けるような結果を残さないと意味がないのではないかと。
- ・JAMCA にメリットがあるような内容にしたい。

◆今後の方向性の検討

- ・序列を付けるような評価ではない（星、格付けをしない）。
- ・第三者評価の評価者に決まり事はないが、車のことを知らない人が評価しても意味がない。
- ・評価方法は点数ではなく、全般的な内容の評価とした方がよい。
- ・学校の内容（評価結果）がオープンになればなるほど、会員校の中で序列ができる。
⇒学校同士の競争が発生し、その結果、学校が良くなる効果もあるが、競争を助長することもある。
⇒第三者評価をどこまでやるか、どういう項目にするか、どこまでをオープンにするか、慎重に考えなければいけない部分であると思われる。
- ・近年、学力が基準に満たないのが現状である。学生の学力をどこまで見ていく必要があるのかが課題である。
- ・専門学校は、アウトプット、アウトカムズがわかりやすい（大学と異なる点）。
⇒今後、視野に入れて考えていきたい。

◆11月のスケジュールの確認

応用編として、11月12日にヒアリングを行う。

<ヒアリング箇所>

- ・東京電機大学

JABEE（工業系の大学における評価機関（ただし、第三者評価の認定機関ではない））関連

- ・文化服装学院
第三者評価を実施済み

<金沢工業大学の見学について>

金沢工業大学は、第三者評価としての評価が高い（JABEE の評価が高い）ため、見学を行う予定。

⇒JABEE の評価を受けると、国際的な評価を受けたことになる（対外的に評価される）。

日程は、11月最終週か、12月第一週を予定。

- ・合宿も兼ねたい。
- ・全体委員会の方々にも声をかける。
- ・日程の詳細については、11月12日に再度調整する。



会議名	第2回ヒアリング調査
開催日時	平成26年10月9日(木) 午後2時00分～午後3時10分
場所	全理連ビル 会議室(東京都渋谷区代々木1-36-4 全理連ビル)
講師	全国柔道整復学校協会 加藤 征 副会長
出席者	中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長 読売自動車大学校 榎本 俊弥 校長 新潟国際自動車大学校 三浦一郎 校長 日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【ヒアリングの目的】</p> <p>柔道整復学校における第三者評価実施の取り組みについての聴取。 ※自動車整備専門学校同様、資格取得を目的としている学校のため。</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 柔道整復師について 3. 柔道整復学校の第三者評価の取り組みについて 4. 質疑応答 5. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆柔道整復師(学校)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成3年から国家資格となった。それ以前は、都道府県知事資格。 ・昭和48年には14校、現在は専門学校が91校、大学が15校。 毎年約5,000人が国家試験を受け、7割～7割5分が合格者。 ・近年、国家試験合格を目的としているため、実技がおろそかになりがちである。 ・平成12年、規定規則が時間制から単位制(85単位、2400時間)に変わった。管轄は厚労省。 ・学校協会加入校は、51校から47校へ減少した。 ・職業実践専門課程の認可校は19校。 ・柔道整復師の質低下の中、向上を図る意味で第三者評価を取り入れる。 ・職業実践専門課程には、質を上げる目的がある。 <p>◆柔道整復学校の第三者評価の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価において柔道整復学校としての差別化を図るため、分野別評価機構を設けた。 ⇒学校のステータスを図るもの。 ⇒分野別(学校独自)の基準を決めなければ意味がない。学校独自の評価が必要になる。 ⇒今後特徴付けをしていく。 ・4つの団体で質保証を上げるために、機構を立ち上げた。

⇒現状は、第三者評価についての基準を決めていない段階。

◆質疑応答

- ・ 評価担当部会（評価組織）、分野別の部会を作っているのか。
 - ⇒ 柔整が分野別の評価機関を立ち上げたところであり、連絡協議会で連絡を取り合っている。
 - ⇒ 評価機構が加わって、全体の調整も行っている。
- ・ 第三者評価は、立ち上げの段階。学校、財団、柔道整復師会、接骨医学会の4つの団体から委員として各1名選出して、分野別評価の内容を検討することを目的として立ち上がっている。
- ・ 日本柔道接骨師組合は、組織が複雑なため、柔道整復師会が主となって行っている。
- ・ カリキュラムはどのようになっているのか。
 - ・ 設置基準に合致していないと認可されない（単位制）。
 - ・ 教員資格が明確である（講習の義務など）。
 - ⇒ 医療分野の講義が多い（医師以外は講師不可）。⇒ 教員確保が難しい。
 - ・ 医療系全般で、講師確保は難しい。
- ・ 分野別の評価内容には、どのような項目を考えているのか。
 - ・ 施術（骨折または脱臼等の検査、診断など）⇒ 卒業の判定基準
 - ⇒ 基準をどのように設定するかが大切。
 - ⇒ 職業実践専門課程が入ったことによって、上のレベルの評価を考える必要がある。
 - ⇒ 高度な教育が望まれている。今までの一般的な柔道整復師を育てるだけでは要望に応えられない。
 - ⇒ 文科省と厚労省の要件を満たさなければならない。
 - ⇒ 柔道整復師として施術技能、患者の接し方などは基本であり、その上のレベルとは心のケアなどに当たるのかもしれないとの意見もある。
- ・ 職業実践専門課程における教育の質保証が要望されている。
- ・ キャリア教育が重要である。目標を持って進んでいくこと。
 - ・ 経験を積まなければできない仕事も多々あるので、幅を広げて教育を行っていかなければならない。
 - ・ 整備士の場合、お客様に説明責任が持てるような一般教養科目が必要となるのではないか。



会議名	第3回ヒアリング調査
開催日時	平成26年11月12日(水) 午前10時30分～午後12時00分
場所	東京電機大学北千住キャンパス 1号館 会議室 (東京都足立区千住旭町5番)
講師	東京電機大学 学長室 特別専任教授 工藤一彦 氏
出席者	中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 新潟国際自動車大学校 三浦一郎 校長 広島工学院大学校 古澤宰治 副理事長 北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 日刊自動車新聞社 小谷将彦 顧問 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	<p>【会議の目的】 JABEEの取り組みについてのヒアリング</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. JABEEについて <ol style="list-style-type: none"> 1) 概要 2) 目標について 3) 審査(審査員)について 4) 基準について 5) 審査手順について 3. 質疑応答 4. 閉会 <p>【内容】</p> <p>◆開会 今回のヒアリングの目的と、今日に至るまでの経緯の説明をした。</p> <p>◆JABEEについて ※ 2013年度版の資料提供 (JABEEのHPに掲載あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JABEEは、プログラム評価(分野別評価)を行っているところである。 ・ PDCAに従って教育目標を立てる。 <p><Plan> 学修の期間中にどのような知識と能力を、どの程度のレベルで身に付けさせるかということを明快に箇条書きにし、教育目標とする。</p>

<Do>

目標を達成できるようにカリキュラムを作成する。

縦軸に目標、横軸に年代とし、そこへ各科目を貼り付けたカリキュラムマップを作成する。

<Check>

学年の終了時や卒業時に、教育目標の達成度をチェックする。

⇒達成できた人のみを卒業させる。

<Act>

チェック結果に応じて、目標やカリキュラムを改善する。

- ・カリキュラム：大学では4年間で達成できる各能力とその水準の育成を目標とし、各科目の知識・能力の育成やコミュニケーション能力等、何をどの程度やったかわかるように評価しなければならない。
- 例) 期末試験では詳細な課題の理解力を、討論や発表能力ではチェックリストを用いた能力のチェックを行い、JABEEでそれらの結果をチェックする。
- ・目標が定量的に達成できているか、それを育成できるカリキュラムマップとシラバスができていないか、それらを評価した上で、目標を達成できた学生のみ卒業させているかを評価する。
- ・改善については、改善委員会等が行う。

◆目標について

- ・目標：技術者として育成すべき能力（提供資料を参照）
 - 地球的視点から多面的に考える能力
 - 自然などへの影響
 - 技術者の倫理に関すること
 - 数学や自然科学に関する知識と応用能力
 - 当該分野（例：機械工学）の専門知識と応用能力
 - デザイン能力（学習したことを応用してまとめ上げる能力）
 - 論理的な記述力・口頭力・コミュニケーション（文章と口頭のコミュニケーション）
 - 実質的・継続的に学習する能力（場所や期間を問わず、未知の事柄を学習できる能力）
 - 計画的に仕事を進める能力（プロジェクトマネジメント）
 - チーム活動能力
- ⇒上記を最低限の目標として提言し、大学ごとに項目と水準を定めてもらう。
- ・具体的な目標を立てることが重要（実現、評価できるもの）になり、一般目標も必要（専門的な事以外）。
- ・目標 → 育成 → チェック（身に付いたかどうか） → 全体の改善
- ・JABEEではプログラム評価のため、経営については問わない。
 - ⇒JABEEでは、学生のため・世の中のために、質の高い教育ができていないかのチェックのみ。
 - （消費者保護）

◆審査（審査員）について

- ・PDCAが一番重要になる。
- ・誰が行っても維持できるような組織的なシステムにすること。システム的に達成できること。
- ・質の高い教育を行った結果の出口である（出口選別はダメ）。システム的に質が保証されるようにする。
- ・審査時の評価者の質も問われる。
- ・多くの評価者に対する教育が難しい。審査員の教育、育成が重要になる。
- ・他校の見学を実施している（評価者の質を高める効果がある）。

◆基準について

※提供資料を参照

基準 1：学習・教育到達目標の設定と公開

卒業後 5 年後ぐらいの自立した技術者を念頭に置いた上で、卒業時の学修成果の目標を立てる。
⇒最初に、卒業 5 年後ぐらいの自立した技術者像を作り、そこから卒業時の目標を設ける。

基準 2：教育手段

教員の教育や、教育の施設等

基準 3：学習・教育到達目標の達成

教育の結果、目標が達成できたかどうかをチェックする。

基準 4：教育改善

チェックに基づいて改善を実施しているか、改善の仕組みがあるか。

◆審査手順について

※ 6 年に 1 回審査を行う。

1. 自己点検書の提出
2. 審査員 4 名による自己点検書の書類審査
3. 書類の質疑応答と現地調査
4. 報告書作成
5. 異議申し立て
6. 審査チームの報告書作成
7. 分野別で報告書を収集し、比較検討して審査レベルの調整
8. JABEE で報告書のチェック
9. 異議申し立て
10. 公表

◆質疑応答

●JABEE を創ったきっかけ、目的は？

- ・諸外国では、ア krediteーションを行って、学校の良い点を世間に証明している。
- ・日本の大学が諸外国の大学の交流を行うための同等機関の必要性を考え、有識者が検討し、活動を始める。

・日本の教育の質の保証をアピール（理念先行）する必要があったため。

●諸外国とのバランスを取るために創設し、優位にたったことは？

・アメリカの ABET の翻訳から始まる。上部機関のワシントン協定で、各国の教育の質保証の相互連携を行い、国際的同等性を確保する。

⇒JABEE のコースを出れば、無条件に外国のエンジニア受験資格を得られるような形にしたい。

⇒日本の場合は技術士の資格がマストではないが、他国では学歴要件（認定団体が認定したコースを卒業して試験を受けること）が条件になっていることがあるため（留学生対応）。

・質の保証が重要になっている。

・インドネシア、中国での同様機関の立ち上げに国際協力している。

⇒日本は優位に立っている。

●理念の中に序列をつける考えはあるのか？

・やっていない。基準に合格したかどうかの評価である。

●分野別の枠組み評価の仕方は、どういう区別がされているのか？

・基本分野がいくつかあり、当てはまらない場合は「その他」の分野がある。

●卒業時の目標によって分野が分かれ、違ってくることに對しては？

・該当専門分野に関する知識とその応用がある。

該当専門分野：電気・機械、基礎的な数学・物理

・専門的なところは2つのみ

例えば電気工学でも特徴のある分野に関しては、一般として評価する。

⇒「専門」に当たる部分を定義してもらい、その定義に従って審査する。

●大学の第三者評価機関、JABEE の関係については？

・JABEE の審査は、第三者評価にならない。

・機関別評価は大学全体の評価を行う。PDCA については、PDCA サイクルの有無のみで、詳細までは評価しない。

・第三者評価機関で大学の運営・経営をチェックし、JABEE では教育内容のチェックを行う。

●第三者としての位置付けの区分けは？

・各学校は審査の対象であり、JABEE の内部にあることはない。

・JABEE の方針で、JABEE 独自の教育の枠組みを提案しているのみ。

・評価委員が学校関係者であっても、JABEE の審査員として審査を行っている。

●機関別評価、分野別評価を創るに当たったの理念は？

・卒業生の技術者像をまず決めることが必要である。

- ・最低限の教育や特徴的な教育、ペーパーテストの能力のみではない必要な能力（人間性、創意工夫）等をリストアップし、専門学校としての営業も考慮した最低限の人材像の目標を設定することが大切である。それによって、専門学校の存在価値が社会で認知される。その目標に対して、カリキュラムが対応しているか、卒業時に能力が身に付いていることが保証されているかを考える。
- ・重要なのは「どのような学生を育てるか」ということ。そのためには、いくつかの例を見るのが早いかもしれない。
- ・次に審査方法などの技術的な問題が出てくる。

